

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	金沢大学	整理番号	1908
プログラム名称	ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	大竹 茂樹	プログラムコーディネーター	華山 力成

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、世界的に卓越した WPI/NanoLSI の取組成果を大学院教育に還元し、ナノ生命科学専攻の設置等による大学院教育の深化が着実に進んでいる。学長が交代し、ビジョンの変更はあったものの、大学院 GS、QE、ラボローテーションなど、本プログラム施策の大学院全体での制度化が進められ、大学院改革が着実に進展していることは評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、KPI 達成状況や学生の外部資金獲得等、学生の成長状況が何え、企業に就職後に新製品を開発する修了生も現れていることは評価できる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、特別講演会やシンポジウム等、イノベーション創出、課題解決に向けた各種の啓発が進められている。また、ダブルメンター制度も有効に機能しており、指導体制が整備されていることを伺わせる。

優秀な学生の獲得については、本プログラムが金沢大学博士研究人材支援・研究強化戦略プロジェクトの最上位に位置づけられ、成績最上位の学生が選抜されている他、Web サイトや広告、学外への発信 (NHK で放映) 等の PR にも努めており、学業的に優秀な学生の獲得につながっていることは評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、NanoQE による厳格な審査を開かれた審査体制で実施し、特に学位審査を含めて学外委員の導入を推奨している点は評価できる。

事業の継続・発展については、グローバル人材育成機構の中の体制として位置づけ、QE や GS 科目、ラボローテーション等を大学院全体に波及し、改革の定着化を図ってい

ることは評価できる。